

第11回卒業式 答辞

雨だった天気予報も晴れに変わり、まるで私たちの門出を祝福してくれているかのようです。春の空気を感じられる今日の佳き日に、私たちは卒業の日を迎えました。

本日は、私たち十一期生のために、このような心のこもった式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中ご臨席くださいました、校長先生をはじめとする先生方、並びにご来賓の皆様、地域の皆様、保護者の皆様、そして在校生のみなさん、卒業生一同心より御礼申し上げます。

六年前、私たちが入学したその春は、ちょうど新型コロナウイルスの感染が広がり始めた時期でした。私たちの学年は、入学式を経験していない代です。校門をくぐり、胸を高鳴らせながら式に臨むはずだったあの日、私たちはそれぞれの家で新生活の始まりを迎えました。

初めてクラスメイトと顔を合わせたのは、画面越しのオンラインホームルームでした。たださえ友達ができるか不安でいっぱいでした。オンラインでなんて仲良くなれるわけがない、と思っていたことを、今でも覚えています。六月になり、ようやく登校が始まりました。ずっと画面越しでしか見ていなかった友達と実際に会うのは、なんだか不思議な感覚でした。しかし、その戸惑いはほんの一瞬でした。スタートは遅れましたが、仲良くなるのはあっという間でした。

中学三年間は、ほとんどが制限のある学校生活でした。マスク姿が当たり前となり、給食は黙食。楽しみにしていた宿泊行事も次々と中止になりました。その影響か、頻繁に開かれた学年集会で先生方に叱られることも多くありました。当時はそれにすら反発していた反抗期真っ只中の私たちでしたが、今振り返るとあの時間も私たちの成長に必要な時間だったのだと感じます。

高校生になり、少しずつ日常が戻ってきました。中学の頃よりも時間の流れは早く、特に四年生になった春のことをよく覚えています。憧れていた後期生になって初めてできることも増え、少しだけ大人になったようで嬉しく思いました。

しかし、自由が増えた分、責任も伴いました。行事の中心となり、部活動や委員会を動かす立場になりました。思うようにいかず、精神的に苦しい時期もありました。それでも、逃げずに最後までやり通した経験があったからこそ、今の自分があるのだと思います。

合唱祭では難曲に挑戦し、放課後遅くまで練習を重ねました。たとえ結果が悪くても、自分たちの中では一位だと思えるほど、本気で頑張りました。あの挑戦があったからこそ、私たちの絆は確実に深まりました。文化祭では、初めて一から自分たちで企画を考え、試行錯誤を繰り返しました。五年の勉強合宿がクリスマスと重なり、少し慣りを感じていた私たちの前に現れた山之内先生サンタの姿は、今でも忘れられません。まだまだ数えきれないほどの思い出がありますが、こうして振り返ると、私はいつも周りに支えられてきたのだと感じます。

先生方。

授業はもちろん、補講や部活動の顧問として、多くの時間を私たちのために費やしてくださいました。特に担任の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。四年生のはじまりに喝を入れてくださり、どこまでも私たちを信じてくださいました。山之内先生の、クラスの壁をも貫通する豪快な笑い声。先生の言葉は誰よりも心に響いて、わたしたちに安心感をくださいました。一年生から見守ってくださった、十一期のお母さんのような容子先生。放課後勉強していると声をかけてくれたり、お菓子をくれたり、授業外でも常に私たちのことを応援してくださいました。よく文化祭の出し物のマスコットになっていた智樹先生。相談事をするといつも真剣に、そして冷静に考えてくださいました。生徒に近い距離で向き合ってくださいました仁田先生。たとえ生徒が一人でも数学の講習をするなど、生徒一人一人を気にかけてくださいました。愛情いっぱいの先生方が担任で、私たち十一期生は本当に幸せでした。たくさん心配をかけてきたと思いますが、今、私たちは先生方が自信を持って送り出せる姿になれましたか。自慢の生徒でいられましたか。これから先も、先生方は私たちにとって大切な先生であり続けます。二年後、さらに成長した姿で再会できるよう努力していきます。

そして、家族へ。

中学生の頃と比べると、ただの「お父さん」「お母さん」という存在ではなく、人生の先輩として向き合う時間が増えたように感じます。昔よりも少しだけ、同じ目線で話せるようになった気がして、それがどこか嬉しくもありました。悩みが増え、自分一人では抱えきれなくなったとき、いつもそばで支えてくれました。私のやりたいことを尊重し、どんな挑戦にも背中を押してくれました。自分のことよりも、私のために時間とお金をかけてくれたこと。その重みとありがたさに、この年になってようやく気づくことができました。これまで受け取ってきた数えきれないほどの愛情を、これから少しずつ返していけるよう努力していきます。あなたの子どもとして生まれてこられたことを、心から幸せに思います。

在校生の皆さん。皆さんが入学してきた五年前をよく覚えています。初めての後輩は本当に可愛く、まっすぐで優しい人ばかりでした。いつの間にか皆さんは学校の中心となり、行事や日々の活動の中で堂々と活躍する存在になりました。その姿を、私たちは頼もしく、とても誇らしい気持ちで見っていました。これから迎える最後の一年は、楽しいことばかりではないかもしれませんが、皆さんなら必ず乗り越えていけると確信しています。最後の1年は思ったよりも一瞬です。どうか、仲間と過ごす一日一日を大切にしてください。

最後に、十一期のみんなへ。

この六年間、本当にあつという間だったね。中学三年間はマスク越しで、給食は黙食、行事も制限ばかりの毎日でした。だからこそ、後期生として過ごした三年間は、より一層まぶしく、楽しい時間だったように思います。はじめは合唱祭や文化祭に乗り気ではなかった人も、気づけば放課後遅くまで残って練習したり、真剣に意見を出し合ったりしていました。そんなふうに、少しずつ同じ方向を向いていくみんなの姿が、私は大好きでした。盛り上がりす

ぎて授業がなかなか進まないこともありました。見渡したら皆寝ているプール後の授業とか、テラスで眩しくて目が開けられないまま食べたお弁当とか、たまに教室に入ってくる虫に大騒ぎしたこととか。私の日常にはいつもみんながいました。

明日から、この六年間続いた当たり前の毎日がなくなってしまうと思うと、まだ終わってほしくない、少しだけ思ってしまいます。

たくさん笑って、時にはぶつかって、それでも苦しいときには支え合ってきた仲間がいたからこそ、私はここまで歩いてくることができました。みんなと出会えただけで、この学校に来た意味がありました。

本当に、今までありがとう。

私たちは今日、この学び舎を巣立ちます。振り返ってみれば、本当に幸せな六年間でした。一緒に過ごした仲間はそれぞれの未来に向かって歩み始めますが、ここで得た出会いと経験は永遠です。私たちは今日、この学び舎を巣立ちます。振り返れば、本当に幸せな六年間でした。ともに過ごした仲間はそれぞれの道へと歩み出しますが、ここで得た出会いと経験は、これからも私たちの心の中で生きていくことでしょう。

この六年間の日々を胸に、私たちは今日、この学校を卒業します。

結びに、これまで支えてくださったすべての方へ御礼を申し上げ、答辞のことばといたします。

令和八年三月七日